

# 漁業経営の改善促進（西薩地区）

鹿児島地域振興局 林務水産課

## 【背景・目的】

### 1 機船船曳網（バッチ網）漁業における取組み

当地区において、機船船曳網（バッチ網）漁業は主要漁業の一つであるが、近年、しらすの来遊量が減少し、水揚金額も減少している。

江口漁協では5つの漁業生産組合が、漁獲からチリメン加工まで一貫生産しているが、水揚げは平成22年以降 200トン、2億円以下で推移しており、4隻で操業し従業者も多いため各組合は厳しい経営が続き、加えて老朽化した漁船や加工機器の更新も必要なことから、魚価向上の取組み等による経営の安定を目指すこととした。

### 2 低・未利用資源の利用促進の取組み

いちき串木野市は古くから薩摩揚げ蒲鉾等の水産加工業が盛んであるが、現在、安価なすり身製品が普及し、サメや少量の漁獲物は利用されなくなった。一方で、近年、サメの来遊が多く、多種少量の漁獲物が増えてきたことから、これらの製品化、加工業者と連携した取組み等による漁業収益の向上を目指すこととした。

## 【普及の内容・特徴】

### 1 機船船曳網（バッチ網）漁業における取組み

当地域ではしらすは上乾され素干し製品として流通するのが一般的であり、関東地方で見られる生食での流通がないことから、新たな消費形態として生食に注目し、地元に着生するよう生の魅力を生かした製品作りを日置市と連携して行った。

老朽化した漁船等は浜の活力推進プランを策定し、事業導入による更新を検討していく。

### 2 低・未利用資源の利用促進の取組み

西薩地区水産業改良普及事業推進協議会と連携して、サメの有効利用を図るため、漁業者、加工業者、研究機関等で構成する部会を設置し、利用方法や製品開発等を検討した。

またサメの効率的な漁法を導入するため先進地視察を実施し、研修した漁具・漁法について報告会で紹介し、試験的に作成した漁具を配布しサメの漁獲を行った。

## 【成果・活用】

### 1 機船船曳網（バッチ網）漁業における取組み

大分県、愛媛県等での先進地視察を参考に、漁獲試験をとおり漁獲時から加工・保存までの条件を整理し、生しらすの利用を可能とした。

開発した商品は水産物品評会等で水産庁長官賞等を受賞し、即売会等での完売や飲食店等からの注文の問合せがあるなど、大きな反響があった。

江口蓬莱館では「生しらす丼」をメニュー化し、しらすの生食の提供を開始した。

### 2 低・未利用資源の利用促進の取組み

サメ利用促進部会でサメの有効利用方法等を加工業者と検討し、茹でぶか、から揚げ、サメ味付干物等を試作した。

串木野市島平漁協では、アカシユモクザメ等 291尾を漁獲し加工原料に使用した。

低利用魚の買取りは、加工業者と協議し検討していくこととなった。

## 【その他】

### 1 機船船曳網（バッチ網）漁業における取組み

しらす不漁のため原料の安定確保が問題となった。

しらすの生食を定着させるため製品の認知度をあげる取組みの強化が必要である。

現在の漁法はチリメン加工とセットとなった大量漁獲を重視した漁法であり、少量でも鮮度を重視した漁法を検討する必要がある。

### 2 低・未利用資源の利用促進の取組み

サメの水揚げから加工までの鮮度保持，保存場所の検討が必要である。

漁業者と加工業者が折り合えるサメや少量の漁獲物の買取価格の設定が課題である。

開発した製品の売り込み，地元特産品としてのPR方法を検討する必要がある。



しらすの鮮度保持の検討（左：漁獲現場での整理，右：加工場等での協議風景）



開発した生しらす商品

江口蓬菜館「生しらす丼」メニュー化



サメ漁法等の先進地視察及び地元での検討会

漁獲物と試作品（から揚げ）